

湿原の頭脳派

都築 萌香

ずる賢いなあ。ネイチャーガイドさんのヤドリギの説明を聞いてそう思った。ヤドリギと出会ったのは、学校のフィールドワークで長野県の八島湿原を歩いたとき。やっと芽吹きが始まって、遅い春を迎えた湿原にひときわ目立つ春色を見つけた。ミスナラの枝に、広葉のボンボンをとってつけたようなヤドリギとのペアはいくつもいくつも

あった。

鳥がヤドリギの種をミスナラに運び、その種が発芽し、ミスナラの栄養を奪いながら成長していく。そうしてヤドリギは生き抜いてきたのだ。長い歴史の中で、厳しい自然界を生き残るための残酷かつ美しい戦略だ。洗練された仕組みに思わず感動した。そして、私の中でヤドリギが「宿り木」に変換された。爽やかな空気のもと、自然を肌で感じる貴重な経験ができたことを嬉しく思う。次は緑あふれる季節を訪れてみたい。

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ⑤

自然の中で見つけたもの

青柳菜々子

五月十四日、学校の合宿で長野県の八島湿原にハイキングに行った。ガイドの方の説明を受けながら湿原を一周していると、どこからかアオガエルの鳴き声が聞こえたり、鹿の足跡や糞を見つけた。事前学習で、ある程度のごことは分かっているつもりでしたが、実際に現地を訪れ自然に触

諏訪の人々との触れ合い

内田 希

五月に諏訪市を訪れました。訪れる前まで、私は諏訪市についてよく知らず、不便なところなんだろかな、という偏見しか持っていませんでした。しかし、実際に訪ねてみると東京にはない豊かさがあふれることがわかりました。諏訪市のある商店街を散策していたのですが、すれ違う方々のほとんどが私たちに挨拶をしてくださるのです。都会では知らない人

に挨拶するなんて、ほとんど見かけることがないので、驚いたと共に嬉しかったです。また、あるお惣菜屋さんで買い物をした時に、おまけを付けてくださった事が印象的でした。商店街を歩いて感じたのは地域の繋がりが強いという事です。コミュニティを良く取り、お互いを思いやるこの商店街は素晴らしいと思いました。そこには、便利などということではない都会とは違う豊かさがありました。たくさんの方に、このような商店街のことを知ってもらい、その良さに触れてほしいと思います。

5月にお茶の水女子大学附属高校の生徒たちが学年合宿で諏訪地を訪ねた。生徒たちから寄せられた投稿を紹介する。

おわり